



# 優秀賞 (総合部門)

タイトル

120年前の古材甦る

タイプ

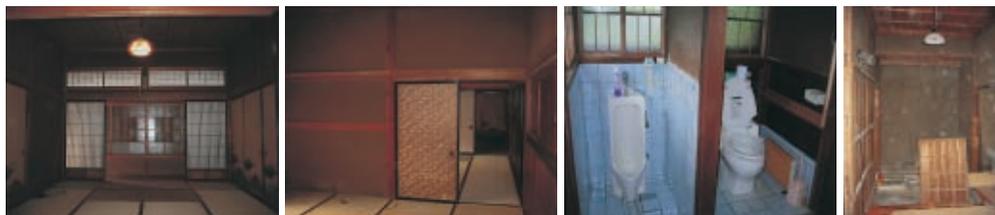
持家一戸建

講評

古民家リフォームでは、明るさ、耐震性、断熱性への対応が必須。介護も考える必要があったこの家の再生には十分な時間がかけられている。地場材や歴史的価値もある古材の利用は、この家に豊かな風格を与えている。

リフォーム前後の写真

## リフォーム前



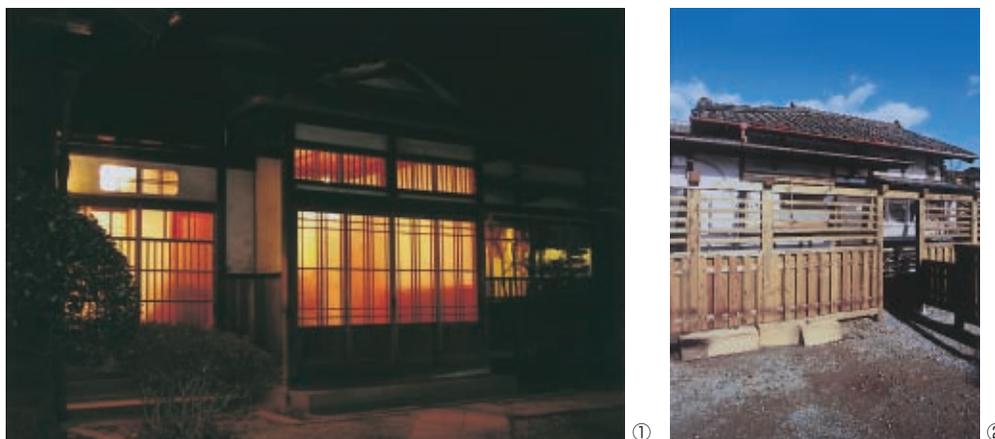
A

B 和室

C

D 物置

## リフォーム後



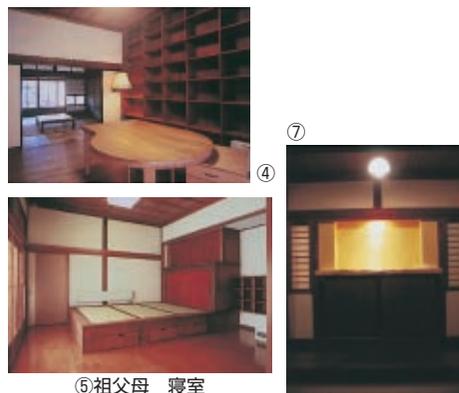
①

②



③若夫婦 寝室

⑥



④

⑤祖母 寝室

⑧若夫婦 居間

### リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

- ・120年前に盛岡師範学校として使用した古材を3回目住宅として使用。今回冬季の寒さ・家族の高齢化・若世代夫婦の同居に伴い120年前の古材へ命をふき込み「4度目の古材再生」を実現。
- ・古家は段差が多い。3年前祖母が右半身麻痺となり介護が必要となったため、今回作業・理学療法士・建築士がチームを組み身体の動きに合わせた玄関トイレ・寝室を造り上げた。
- ・古家の柱・梁・建具を再利用し家族の思い出を大切に。
- ・外観は地域の景観を配慮し素材・色を統一。
- ・快適な冬を過ごせるよう断熱工事には力を入れ各室の温度変化をなくし、さらに太陽光

を積極的に取り入れた。  
 〈施主の感想〉  
 日本の古民家の特徴である暗い、寒い、休まらないという問題に直面。家族相談し工事に踏み切ったのです。  
 若い世代の我々はどうなるか想像できませんでした。「この薄暗い古屋敷がほんとに良くなるの?」と妻は難色を示していました。  
 ①明るさ②断熱③プライバシー確保を設計士さんをお願いしたのです。一年かけて完成した空間は当時の古木が美しくかき明る住まいに生まれ変わりました。  
 妻は多くの友人たちを招くようになりました。リフォーム大成功。

特に配慮した住宅性能：住まい全体を次世代基準レベルの断熱仕様とし、施工中気密レベルを上げるよう工夫した。冬季の暖房経費が大幅にダウン。

### データ

所在地	岩手県盛岡市	構造/築後年数	在来木造	71年
該当工事面積	143 m <sup>2</sup>	該当部分工事費	2,430万円	
居住者構成	4人 (大人<15歳以上)	4人 子供	1人 ペット	
設計者	美建 設計事務所	担当者	桜田 文昭	
施工者	住工房 森の音 (有) 美建工業	担当者	大平 章広	

### リフォーム前



### リフォーム後

